

認知症における病状の各ステージのイメージ（東京都若年性認知症生活実態調査より引用）

	軽 度	中 等 度	高 度
病 状	自立、またはほぼ自立しているが時には人の手を借りることがある。	多くの時間で、介護が必要である。	すべての時間で介護が必要である。
要介護認定	要介護2(75.0%)	要介護4(36.4%)、要介護3(27.3%)	要介護5(61.5%)、要介護3(23.1%)
利用している介護サービス(上位2つ)	<ul style="list-style-type: none"> •利用していない(75.0%) •通所介護(20.0%) 	<ul style="list-style-type: none"> •通所介護(50.0%) •訪問介護(28.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> •通所介護、短期入所生活介護(53.8%) •訪問介護(46.2%)
介護サービスに関する自由意見	<ul style="list-style-type: none"> •サービスが高齢者と一緒なので、若年性認知症の本人が拒否することになってしまう。(家族) •次のステップとして、デイサービスの利用は考えている。今のところ、近所の人たちとコンサートなどにも行っている。毎日行くところがあれば、こちらも安心だし、本人も出かけたときはとても調子が良い。(家族) 	<ul style="list-style-type: none"> •デイサービスに毎日いければいいと思う。(本人) •本人は紙を折る等、単純な作業をすると落ち着くので、そのような、若年性認知症向けのサービスがあれば、本人も精神的にプラスになれるのではないかと。(家族) 	<ul style="list-style-type: none"> •施設に入れたらとの勧めがあっても、施設に先生がいなくてそれが難しい。(家族) •本人はほとんど歩けないため、自分一人では外出時の介助ができないときもある。最近は預けたいと思うときもあるがかわいそうでできない。家族でいるとホッとしているようだし、経済的にとても無理。(家族)
本人の希望に関する自由意見	<ul style="list-style-type: none"> •一人でいることはよくないと思うので、もっと周りの人たちとかかわりを持って生活していきたいと思う。(本人) •自宅で生涯を過ごしたいと願っているが、症状が進み自宅で生活が出来なくなった時のことを思うと、不安ではあるが、どうすればよいかということはない。(本人) 	<ul style="list-style-type: none"> •今のまま家族と一緒に暮らせれば。(本人) •やれる時は自分でやっていきたい。夫婦二人で仲良く生活していきたい。(本人) 	<ul style="list-style-type: none"> •本人は、過去や未来について考えることはできない。(家族)

※東京都若年性認知症生活実態調査

調査期間は、平成20年2月下旬から3月まで。平成20年8月公表。

認知症の進行状況に応じた生活実態を把握するため、上記各ステージ(3群)に分けて特徴をまとめた。